

## 重要文化的景観の選定

## 《重要文化的景観の新選定》 1件

### 1 なきじんそんいまだまり 今帰仁村今泊 やしきりん しゅうらくけいかん のフクギ屋敷林と集落景観 くにがみぐんなきじんそん 【沖縄県国頭郡今帰仁村】

沖縄島北西部から東シナ海に突き出す本部半島の北側中央部に位置し、イノー（サンゴ礁の浅瀬）、海際の現集落、農地、なきじんぐすく 段丘上の今帰仁城跡及び旧集落跡（史跡、世界遺産）、山林からなる。近世の集落移動に際し、河川や湧水が流れ込む広い低地が近く、海産物が豊富なイノーに面し、地下水が得られる微高地が適地とされたこと、また、北風や台風の影響を避ける工夫が不可欠であったことを全体として伝える景観であり、中でも、風から屋敷をほうご 抱護するフクギ屋敷林が、はまほうご 浜抱護やむらほうご 村抱護と共に緑豊かな住環境をつくり、際立った特徴をなす。低地に拡大された農地が隔てる旧集落跡と現集落は、集落立地の考え方が、城との関係性から生活や農業の利便性へと重点を移したことを示す。一方で、沖縄固有の自然崇拜に基づく祭祀や芸能は、集落移転後も継承され、クバの御嶽うたきや城跡をはじめ、山から浜までの各拝所等で現在も行われている。こうした特徴や特性は、亜熱帯気候に属する島嶼群である沖縄県の集落の成り立ちを知る上で示唆に富み、かつ、地域的な慣習や信仰と景観との関わりを良好に伝えるものであり、我が国の生活及び生業の理解に欠くことのできない文化的景観として貴重である。